

※ご参照ください

## 「大阪・関西万博会場で引火事故 工事の火花でガス爆発 けが人なし」

毎日新聞 2024/3/29 18:17 (最終更新 3/29 18:28) 332 文字

2025 年大阪・関西万博を運営する日本国際博覧会協会は 29 日、会場となる大阪市此花区の夢洲（ゆめしま）で建設工事中に発生した火花が可燃性ガスに引火する事故が起きたと発表した。施設の一部が破損したが、けが人はなかった。

夢洲はごみや残土の処分場として埋め立てられた人工島で、地中にたまっていたガスに引火した可能性が高いという。万博会場の建設工事中の事故は初めて。

協会によると、事故は 28 日午前 10 時 55 分ごろ、「グリーンワールド工区」のトイレ 1 階で発生。作業員が溶接工事をしていたところ、火花がガスに引火、爆発し、床が破損した。他の工区ではガスの発生は確認されていないという。

協会は事故を受け、火花が生じる作業を中止。工期への影響はないとしている。【鈴木拓也】

---

当会はこの事故を受け、4 月 1 日（月）に以下のような「緊急要請」を万博協会に行いました。

- ① 事故の原因を調べ、公表すること
- ② 同様の事故が起こる可能性のあるエリアを調べ公表すること
- ③ 安全に作業できる労働環境になるように手立てを講ずること
- ④ 安全に作業できる労働環境が確立できるまで、すべての工事や作業をストップすること
- ⑤ 今回は地中から噴出するメタンガスに起因するものであるが、その他地中に埋まる有害物質による健康 被害の危険性についても調査すること
- ⑥ 今回のように万博会場敷地の管理者である万博協会の怠慢または不作為で作業ができない場合の工事者（労働者）への損害補償をすること

---

メタンガスは地中に埋められた廃棄物由来のもので、約 80 本のガス抜きパイプで大気中に放出しています。小学生の保護者である当会メンバーの方は、「爆発がないとしても、子どもにメタンガスを吸わせたくない」と言っています。万博期間中はそれらのパイプを地中で集め、排出する計画だという情報もありますがその処理によるリスクも考えられます。

学校関係者の皆さまも、安全が確保される対応がとられるのかを注視いただきたいと思います。